

所弓便

第20号

会員 242名

∞ 各部報告 ∞

【総務部】

会員数

11月30日現在の会員数は242名です。

新会員

平成29年5月～29年11月までに入会された皆さんです。

市野健太郎、中島明彦 蒲生一志 山崎和正
大谷福市、寺岡康一、藪崎浩子、仲野裕昭

昇格・昇段

平成29年6月25日以降29年11月19日までに昇格・昇段された皆さんです。

教士：甲斐久歳 五段：小島理恵
四段：足立倫生、池内健二
参段：荒木大亮、石毛克恵、田中恵美子
二段：関口純子、石川 舞、永松千穂、
米澤真樹
初段：中島結華梨

総会・理事会・常任委員会・部長会

8月13日

第2回部長会 (出席者15名)

・会長より、春田先生から追加寄附を頂いた旨、報告があった。

- ・熊野神社境内の道場再建設に関し、市長以下市関係部署の仲介協力の意向が確認され、今後市との打合せに新道場建設推進委員が中心にあたることを確認した。その後、市との打合せを行った。
- ・各部事業経過報告及び、今後の行事予定の確認を行った。

8月20日

第2回常任委員会 (出席者28名)

上記部長会の打合せ内容を報告、確認された。

【総務部】

- ・5月15日所弓便19号発行。
- ・各種行事後に借切りとした17～21時の利用状況把握のため、行事後の利用は改めて利用簿に記載願いたい。

第50回武州弓道大会

平成29年11月23日(木・祝)所沢市民武道館弓道場に於きまして、恒例の「熊野神社弓祭り・第50回武州弓道大会」が開催されました。生憎前夜からの冷たい雨がかなり激しく降る中、大会役員代表が熊野神社に参拝をして会場に向かいました。

足元が悪いので出足をくじかれたのではないかと、参加人数を気にしておりましたが、会場に着いてからの控室が整っていると言う好条件もあり、受け付け開始の8時から大勢の弓友が申し込んで頂いている状況を見て一安心しました。

本大会は昭和40年に第1回が開催されましたが、昭和48年に会場を熊野神社境内の道場に移して以来、熊野神社への奉納射会として開催されてきました。しかし、規模の拡大と駐車場の関係もあり、平成22年に会場を所沢市民武道館に移して開催しております。

今回は第50回と言う節目の記念すべき大会とあって、大会を盛り上げ、賞品も例年より「質」を上げて、参加された弓友に喜んで頂くよう、会員

一同気を引き締め一丸と成って準備に当りましたが、11時の大会参加締め切り時に、50回大会に参加者が丁度500名と言う切れの良い数字にまとまりました。

今大会の詳細は、下記のとおりです。

- ・来賓：所沢市長 藤本正人様、市議会議員 杉田忠彦様、教育長 内藤隆行様、市議会議員 秋田孝様、連盟顧問 並木正芳様
- ・矢渡：射手 新家透 介添 藤田良、廣瀬雅孝
- ・参加者：500名、内 会員79名、手伝い4名、スポ少16名、手伝い 3名
- ・競技：予選500名中通過者258名 (51.6%)
皆中者30名
決勝射詰め8回目にて優勝決定 (5回目より24cm的)
- ・優勝者：江東区弓道連盟、長谷川雅亮選手
- ・所弓連会員入賞者： 9位中村徳海、10位松寄恭子、25位塩島佳代。



優勝した長谷川選手

所弓連最大のイベントで有る武州弓道大会も今年の大会を含めて、参加者が3年連続500名を超える盛況で近隣都県の知名度もかなり行渡っているようです。受け入れる側の当連盟会員もしっかりと心を引き締めてお迎え出来るよう、より一層の努力、協力が大切だと思います。

【指導部】

定期講習会

土曜講習会 (草賀 淳先生) (毎月第2土曜日)
5月～11月 受講者 延122名

水曜研修会 (毎月第4水曜日)

5月～11月
研修会なので記録していませんが、毎回15名前後の参加があり、矢渡の介添や手の内、失の処理などの研修を行っております。

特別講習会

所弓連 第1回 特別講習会

かねてより外部の先生をお招きしての講習会開催の希望がありましたが、この度見原先生のご尽力により、全日本弓道連盟 前々会長 範士九段 石川武夫先生のご来駕を得て、7月1日(土)に所沢市民武道館において、五段以上の受講生31名参加のもと、標記特別講習会が開催されました。

礼記射義・射法訓唱和の後、射手 新家会長、介添 上橋六段、篠原六段による矢渡が執り行われ、石川先生より講評と矢番えや介添の留意すべき点等につき身振り手振りを交えてご指導頂きました。その後全員一手行射を皮切りに、熱気あふれる真剣な講習が始まりました。行射の後、先生より一人ひとりに対し、丁寧な講評を頂きました。



午後からは、午前中の行射に対する全般的講評とともに、取懸けから手の内の作り方、大三の重要性、バランスの良い引分け、会での身体の張り方など、実際に弓矢を執られて具体的に詳しくご説明頂いたのち、一人ひとり個別に懇切な射技指導を頂きました。



最後にご指導頂いた自分の留意すべき点を今後の射に生かして行こうという気持ちを込めて全員仕上げの一手を行射し、充実した講習の幕を閉じました。

石川先生には来年もまたこうした機会を持って頂きたいとの全員の思いが叶いますよう心より願っております。

なお、先生のご指導の様子の一部を動画で撮らせて頂きましたが、大変判り易いご説明で、何回見返しても参考になる事が多く、回覧用に書籍棚にDVDを備えてありますので、ご利用下さい。

初心者弓道教室

1. 所弓連主催初心者弓道教室

期間：5月20日～6月24日 毎土曜日 午後1時～4時30分 全6回

7月から8月まで土曜日13時から15時まで6～7名程の参加者を得てアフターフォローをしました。

2. シンコースポーツ初心者弓道教室

期間：10月14日～11月18日

毎土曜日 午後1時～4時半 全6回

参加者 15名

∞ 投稿 (1) ∞

親子で合格

石塚正徳

平成29年5月、第2回審査会にて娘と二人で合格することができました。ご指導を賜りました先生方、色々とアドバイスを頂戴した皆様方に感謝申し上げます。

娘と一緒に審査を受けるということは予想以上にプレッシャーが大きく、また娘の事が気にかかり自分に射に集中できません。しかしそれ以上に親としては子どもと一緒に弓を引けることは嬉しいものです。今回は娘と一緒に昇段することが出来てとても嬉しい気持ちとともにホットしました。

審査が始まってしまうとそれまで頭で考えていた事など吹っ飛び、普段の練習通りに出来るか出来ないかになります。出来ない時は練習が身につけていないという事です。今回も立ち位置を間違えてしまったり、前の人を追い越しそうになってしまったりと反省することが多かったです。

初心者教室から式段取得まで約4年。長かったです。やっとスタート位置にたどり着いた気持ちです。審査の合格率を見ると参段の壁は高そうです。亀のように遅い歩みですが、その壁を乗り越えるようこれからも稽古を重ねて頑張りたいと思っております。

初段合格

石塚彩夏

わたしが弓道を始めたきっかけは、家族の影響が大きいです。兄、父と、弓道を始め、興味を持ちました。そして今回初段を受けるにあたり、先生方のアドバイスに沿って練習を続けた結果、合格することができました。

筆記試験においては、当初射法八節の順番、

内容について細かく理解しておらず、先生方のアドバイスも射法八節の基本を理解した上で行わないと意味がないことを痛感しました。

初段」は、段取得者からすれば「基本」であると思われませんが、初めての段の取得は、知識とともに向上心を与えてくれました。

今は、学校やアルバイトと並行して弓道を行なっているため、バランスが取れず積極的に練習に参加はできていないので、バランスを整えることも練習の一環だと思って精進していきたいと思えます。今後とも、よろしくお願ひいたします。

「弓道」との出会い

長尾 健

高校入学時に部活を考える中で、以前から興味をもっていた「弓道部」をのぞいた。

張りつめた空気感、矢が放たれる音、高校生ながらも興味を感じた。

しかし、結局中学からやっていた球技に入部した。それから、30 数年後、仕事も土日休みとなり、自分の時間を如何に使うのかを考えるようになった。そのような中、弓道場の存在を知り、「初心者教室」への参加を決めた。

「初心者教室」で、先生方の射を拝見し、射の美しさ、張りつめた空気感、静けさの中での矢の放たれる音、日常の生活では体験することはなかなかない。

ひとつひとつの動作・所作が静かなる中に力強さを感じ、魅了した。

しかし、言うは易く、行うは難し。

射以前に、帯の締め方、そして袴の着け方に苦労し、汗だくになる状況。しかし、道着を身につけると、自然と姿勢が正しくなるような感じがする。基本の姿勢とそれぞれの動作、そして射法。一つ一つ身につける難しさ、的にあたってとしても、同じ射をすることの難しさ。奥は深い。

40 後半で始めた「弓道」。これからの人生を共に歩んでいきたいと思う。

初段審査を終えて

米澤真樹

2017年5月7日の日高審査にて初段の合格をいただきました。緊張のあまり体配を間違ってしまった箇所もあったのですが、何とか合格出来たのは審査の前日まで指導して下さった先生方、先輩方のお陰です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私の弓道歴ですが、中学時代の弓道部の3年間のみで、その後は弓道とは全く無縁の生活を送っていました。昨年春に子供が中学生になって家族で出掛ける機会が減り、何か趣味を見付けようと昨年秋の初心者教室に申し込んだのが、再び弓道を始めたきっかけです。30年振りということであれはありましたが、弓の引き方は若い時に経験があれば体が覚えているとのことで、未熟者ながらも何とか続けることができています。

趣味探しで始めた弓道ですが、先生方、先輩方からご指導いただく事で学ぶ事が多く、また、中学生時代には分からなかった弓道の魅力にも沢山気付くことが出来たので、再び弓道を始めて良かったと思っています。

当てることにこだわるばかりに、小手先で引いてしまうことが多いのですが、正射必中を心掛けて練習に励みたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ致します。

初 段

永松千穂

2年前の6月に初心者講習を受けてから2年。今年の5月に初段を頂く事が出来ました。

先生方や先輩方・同期のみなさまにはいろいろと教えて頂き心より感謝しております。本当にありがとうございました。

私が弓道を始めようと思ったのは“禅”が好きだからです。稽古を始めて、最初に衝撃的だったことは、稽古の前と最後の国旗拝礼です。武道の経験がなかったのでとても新鮮な体験でした。素直で謙虚な気持ちで弓道に向き合うことが出来る大切な瞬間であることを体感しました。

そして、弓道では稽古をする度に新しい自分を発見しています。(頭ではわかっているけど同じことが出来ない、自然体が出来ない、無駄な動きや癖がある等) 日常では味わえない非日常の静寂な時間にとっても魅力を感じています。

今の目標は、仕事も家事もシンプルにして稽古する時間を増やすことです。

今後ともよろしくお願い致します。

神様からのご褒美！

甲斐久歳

7月の仙台中央審査で、「教士」の称号を頂きました。

70歳を過ぎて、体力も筋力も衰え、それに加えて最近では節々のあちこちが痛むようになり、満足に弓が引ける機会が少なくなってきましたので、ただ道場に行って馴染みの弓友と楽しく的に向かい弓を引いているだけでは、「道」としての一本筋の入った弓を忘れてしまいそうな感じがします。せめて年に2回、仙台と明治神宮での審査に臨み緊張した弓を引こうと心掛けておりました。

審査当日、仙台では道場内でも軽く30℃を超える猛暑でした。「肌脱ぎがうまく行くといいな」と内心考えておりました。午後3時過ぎに一次審査の順番が来て、射場に入りました。

意外に緊張もせずに肌脱ぎもうまく行き、射位に進み、頭の中では「会」が短くならないように、静かに引き分けて会に入りそれから105、104、103・・・と数えて100に成ったら「射法訓」にあるように、胸の中筋より軽く左右に分かれる「離れ」をイメージしておりましたが、幸いにしてそれがうまく行き、2本とも的にして一次審査を通過しました。

二次審査の招集があったのは既に6時を過ぎており、順次面接を受けて、「一つの射礼」の審査へと移りました。射場に入った時はすっかり夜になっており、矢道は暗く、射場と安土とだけが明るく、しかも的も昼間と違い照明に反射されてい

るのか霞的の黒い線が見えず、ぼんやり白く浮かんでいるように見えました。有り難いことに舞い上がるような緊張感や、手のひらに汗をかくような緊張感も無く、一次審査の時と同様に、静かな深い「会」と迷わぬ離れを念頭に・・・、ただ「一つの射礼」の体配を間違えない事を心に銘じて的前に進みました。

ピーンと張りつめ緊張した射場の中で、弦音の後に矢が的に中る音が2度響き、教士に合格する事が出来ました。審査終了が9時を大幅に過ぎていたので、仙台からの帰りが大変で、結局帰宅したのは夜中の2時でした。

帰宅して数日後に、論文や必要書類の提出も終え、これまでの人生を振り返ってみますと、家内と結婚して50年。授かった3人の子供たちもそれぞれに独立をして、所帯を持っております。家業は、脱サラをして家内の実家でクリーニングの技術を学び、国家試験のクリーニング師の資格を取得の後、29歳の時に都内の貸店舗にて独立をしました。そして42歳の時に莫大な借金をして、今の地に土地を買い店舗を建てて、家内と二人三脚で必死に働き、その借金も完済して今日に至っております。その間及ばずながらも、弓道連盟の御用も務めさせていただきました。それを見ていた神様のご褒美に「教士」の称号を下されたのではないかな？と思ったりもしております。

これまでに、癌で2回、胆石で1回大きな手術を受けましたが、まだまだ少し弓を引く体力が残っていると思いますので、道場へ通わせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

【競技部 (スポーツ少年団含む)】

《所弓連主催射会》

5月 月例射会 (5月13日) (44名参加)

(二段以下)

1位 田中恵美子 2位 石塚正徳 3位 中村千賀
(三・四段)

1位 小山 等 2位 中村康代 3位 中村徳海

(五段以上)

1位 粕谷吉一 2位 甲斐久歳 3位 下田 徹

6月 月例射会 (6月11日) (39名参加)

(初段以下)

1位 米澤真樹 2位 野上脩久 3位 永松千穂

(二～四段)

1位 田中恵美子 2位 植村亮子 3位 中根幸二
(五段以上)

1位 藤田 良 2位 篠原一郎 3位 粕谷吉一

7月 月例射会 (7月9日) (51名参加)

(二段以下)

1位 田中恵美子 2位 米澤真樹 3位 清水公子
(三・四段)1位 土井政明 2位 廣瀬雅孝 3位 中村徳海
(五段以上)

1位 関口二郎 2位 嶺美智子 3位 篠原一郎

8月 月例射会 (8月13日) (40名参加)

(三段以下)

1位 塩島佳代 2位 田中恵美子 3位 石川 舞
(四・五段)1位 飯尾 弘 2位 関口二郎 3位 渡部知実
(称号)

1位 増田裕子 2位 飯島稔凱 3位 松寄 昇

第44回所沢市民弓道大会

平成29年9月10日(日)、秋の一日標記弓道大会が所沢市民武道館弓道場において、124名(学生68名 一般56名)の参加を得て盛大に開催されました。

各部優勝者による総合優勝決定戦は、学生の部は河野 陸選手が、一般の部は昨年に続き下田 徹選手が見事栄冠を勝ち取りました。

《学生の部》

(小・中学生の部)

1位 沖園史華 2位 佐々木史弥 3位 熊井雪乃

(高校初級の部)

1位 河野 陸 2位 瀧本 光 3位 伊藤瑚乃香
(高校上級の部)1位 富樫友梨香 2位 太田敦樹 3位 根岸萌香
学生の部総合優勝 河野 陸

《一般の部》

(二段以下)

1位 石塚遼馬 2位 田中恵美子 3位 石毛克恵
(三・四段)1位 安江仁美 2位 廣瀬雅孝 3位 田中明子
(五段以上)1位 下田 徹 2位 渡邊徳雄 3位 甲斐久歳
一般の部総合優勝 下田 徹

シンコースポーツ杯弓道大会 (10月8日)

主催 シンコースポーツ株式会社

後援 所沢市弓道連盟

参加者 81名(所弓連34名、スポ少9名、その他38名(高校生、一般))

団体 以下のほかに飛び賞10チーム

1位 根岸萌香 引地靖子 柚山博文
2位 中村天香 東 弘人 関口二郎
3位 山越優太 輪島優月 秋山貴美雄
〃 佐久間優花 増田礼仁 関口研二

個人 10位まで

1位 長井敦史 2位 根岸萌香 3位 河野 陸
4位 佐久間優花 5位 新家 透 6位 川端由美子
7位 瀬賀かほる 8位 秋山貴美雄 9位 宮井真治
10位 小山和枝

所沢市青少年三道大会(弓道の部) (11月12日)

(中学生以下21名、高校生100名、武道館)

青少年育成所沢市民会議主催の青少年三道大会が行われ、総合開会式は市民体育館で今年は弓道連盟が担当幹事として9時から開催されました。

《小・中学生の部団体》

1位 スポ少F 稲葉唯花 中村天香 齋藤柊茉
2位 スポ少C 熊井雪乃 沖園史華 石井叶生
3位 スポ少B 佐々木史弥 野上脩久 石田順之介

《小・中学生の部個人》

1位 齋藤柊菜 2位 佐々木史弥 3位 稲葉唯花

《高校生の部団体》

1位 所沢高A 山田雄大 佐藤郁成 太田敦樹

2位 秋草学A 住田若奈 大野 茜 宮本佳奈

3位 所沢北14 有田裕貴 遠藤慶多 武藤 諒

《高校男子初級の部個人》

1位 新見広樹 2位 川口 駿 3位 河野 陸

《高校女子初級の部個人》

1位 西村優希 2位 白土 初 3位 浅岡里都

《高校男子上級の部個人》

1位 武藤 諒 2位 東 弘人 3位 早坂駿河

《高校女子上級の部個人》

1位 住田若奈 2位 富樫友梨香 3位 大野 茜

《個人総合優勝》

武藤 諒 (所沢北)



(行射中の三道大会参加選手)

第50回武州大会 (11月23日) (参加者 500名)

1位 長谷川雅亮(江東区弓連) 2位 金子節子(浦和駒場)

3位 伊藤隆司(ホンダ埼玉) 4位 長井敦史(熊谷運動公園)

5位 福山華蓮(西武文理高) 6位 長谷川絵鈴(茨城蒼藤会)

7位 川越俊彦(江東区弓連) 8位 宮崎なつき(吉川市弓連)

9位 中村徳海(所沢市弓連) 10位 松寄恭子(所沢市弓連)

11位 齋藤和寿(与野高校) 12位 宮崎正範(吉川市弓連)

13位 高橋郁弥(坂戸西高) 14位 山田浩二(新座市弓連)

15位 小林和真(明治大学) 16位 各務勝洋(春日部市弓連)

17位 栗井将登(飯能高校) 18位 竹村銀郎(桶川市弓連)

19位 阿部貴大(新宿区弓連) 20位 大森陽平(茨城蒼藤会)

21位 工藤瑠樹也(坂戸西高) 22位 忠 聖人(川越初雁高)

23位 高橋 希(明星学園) 24位 小島修治(大宮弓道愛好会)

25位 塩島佳代(所沢市弓連)

《対外競技会》

130回明治神宮奉納遠的大会 (5月3日)

参加者 3名 入賞者なし

入間市近隣親善弓道大会 (5月5日) 参加 27名

《個人》

2位 関口二郎 6位 三好啓子 9位 小山 等

10位 廣瀬雅孝 11位 飯尾 弘 13位 中根幸二

《団体》

2位 所沢C 坂川隆人 黒木智哉 関口二郎

ねんりんピック県連予選大会兼埼玉県実年者弓道選手権大会(5月16日)

参加者 ねんりん8名 実年10名

今年はねんりん予選と実年者選手権を一緒に実施。

ねんりん選考選手 関口二郎 熊井紀一 三好啓子

実年者 2位 下田 徹 3位 関口二郎

埼玉県弓道選手権大会等 (5月20日 21日)

参加者 称号者部: 12名、有段者部: 8名

《称号者の部》

入賞者なし

関東三県及び全日本出場選手 2次選考会候補選手

女子 三好啓子 増田裕子

《有段者の部》

関東三県選拔出場選手 2次選考会候補選手

候補者なし

三県選抜弓道大会参段以下の部出場選手補欠

引地靖子 (後日辞退)

同上 2次選考会 (5月28日)

三県選抜弓道大会称号者の部出場選手 三好啓子

埼玉弓連女子部遠的大会 (6月11日) 参加者 10名

称号者の部 4位 三好啓子

埼玉県弓道遠的選手権大会兼全日本遠的選手権

大会出場選手選考会 (7月2日) 参加者 13名

埼玉県弓道遠的選手権大会

入賞者なし

全日本遠的選手権大会出場選手2次選考会

(7月9日)

全日本出場選手 本橋民夫

中部・西部支部親善射会(7月17日)参加18名

入賞者 13位 藤田 良 14位 上橋 宏

18位 飯尾 弘 19位 中村康代

誑売杯争奪 兼 県体予選 兼 寿射会(8月6日)

参加者216名(内所弓連62名)

誑売杯

1位 飯尾 弘 4位 小林孝則 6位 中村徳海
9位 松寄恭子 10位 下田 徹 13位 粕谷吉一
14位 藤田 良

寿射会

寿A 1位 藤田 良
寿B 2位 下田 徹 3位 熊井紀一

県体選手

(四・五段の部)

① 中村徳海 小林孝則 飯尾 弘
② 藤田 良 廣瀬雅孝 水口 清

(女子の部)

① 嶺美智子 奥富季乃 三好啓子

(称号の部)

① 粕谷吉一 篠原一郎 永島英男
② 熊井紀一 平山夏子 下田 徹

西部支部選手権大会 兼 県武道大会選手選考会

(9月2日)参加者所弓連44名 スポ少15名

西部支部選手権

団体

2位 奥富季乃 徳丸久美子 三好啓子
3位 飯尾 弘 平山夏子 下田 徹
3位 熊井紀一 篠原一郎 永島英男

個人

優勝 藤原敬一 3位 平山夏子 4位 川端由美子
5位 徳丸久美子 6位 柚山博文 8位 奥富季乃

県武道大会選手

男子 藤原敬一 柚山博文

女子 奥富季乃 徳丸久美子 川端由美子 平山夏子

中学生の部

田中希実 佐々木史弥 西澤智美 北條航生

沖園史華 熊井雪乃 稲垣壱琉 中村天香

稲葉唯花

埼玉県勤労者弓道選手権大会(9月3日)

所弓連 参加者なし

第30回県民総合体育大会(9月24日)

所弓連5チーム参加 参加資格により予選通過時の選手の一部(3名)入れ替えを行った。

《称号者の部》

(近的)

団体 2位 所沢K 熊井紀一 平山夏子 下田 徹

《四・五段の部》

(遠的)

団体 3位 所沢N 中村徳海 関口研二 飯尾 弘

第41回埼弓連女子部弓道大会(10月15日)

所弓連 12名参加

入賞者なし

【スポーツ少年団】

(*スポーツ少年団の記事は、一部重掲、各種射会記録は競技部にも掲載しています。)

スポーツ少年団弓道交流大会

平成29年10月15日(日)所沢市民武道館において第8回所沢市スポーツ少年団弓道交流大会が開催されました。この大会は平成14年に所沢と秩父、2つのスポーツ少年団の交流試合として始まり、1年毎に交代で主催する形で続けられてきました。所沢では8回目となる今年は、6団体96名もの参加者によって熱戦が繰り広げられ、競技の後には金的・扇的で盛り上がりました。

所弓連からはスポ少支援部以外に 20 名の方々に運営をお手伝いいただきました。ありがとうございました。事前の打合せがあまりできなかったにも関わらず 100 名規模の大会を滞りなく実施できたのは、武州大会や月例射会等の運営で培われた所弓連の実力あってこそと思います。

これからも子どもたちの成長を見守っていただければありがたく存じます。

平成 29 年度スポーツ少年団初心者教室

(5 月 13 日～6 月 17 日まで 毎週土曜日)

参加者 12 名

(中学生 1 名 小学生 9 名 保護者 2 名)

修了者 12 名

(中学生 1 名 小学生 9 名 保護者 2 名)

平成 29 年度保護者会総会 (6 月 25 日)

新入団員 11 名

(小学生 9 名 保護者 2 名)

全日本少年少女武道錬成大会 (7 月 17 日)

日本武道館

4 チーム (12 名) とともに予選敗退

予選皆中者表彰 稲葉唯花

県民総合体育大会中学の部 (7 月 22 日)

秩父第一弓道場 17 名参加

入賞

男子団体 3 位 所沢スポ少 B [佐々木史弥、野上脩久、齋藤柊菜]

スポーツ少年団弓道交流大会 (10 月 15 日)

所沢民武道館弓道場 21 名参加

入賞者

初級の部 4 位 鹿野川璃羅

∞ 投 稿 (2) ∞

参段審査を終えて

荒木大亮

参段審査の申込みをした時は弓返りも半分しかしていなかった事もあり、今回は「場馴れ」を目的に受けるつもりでいました。

ところが審査までひと月足らずになった頃、突然しっかりと弓返りし始めたので、全くやる気のなかった学科の勉強を慌てて始めました。

当日は気持ちを落ち着かせるために『こっちはお金を払っているんだからソンしないようにしっかり見てもらわんと。ふん!』と、せこい喝を入れました。

そんなカラ元気が功を奏したのか、射場に入ってから自分は 練習でやってきたことを見てもらうべく ただ淡々としていて 隣のプールから聞こえてくる水球の試合の笛の音や大きな声援もほとんど意識に入って来ない中、甲矢を放ったらパン!と音がしたので『中ったのか・・・』と思いました。特に気持ちの変化はなく、と言いますかそんな余裕もなく、引き続き 体配をこなして乙矢を放つとまたパン!と音が聞こえて そのままいつも通り退場しました。体配や射形にはまだまだ当然課題はあるはずですが、大きな失敗は無く 練習してきたことを良い形で見てもらうことができて幸運でしたが、まるで自分のことではないような不思議な感じでした。

学科試験では事もあるうに会場に遅刻して入るといふ失態をやらかしてしまい、真偽の怪しい記憶を絞り出してなんとか書き終えた時にはくたびれ果てて放心状態でした。学科は本当に苦手です。

思い返すと、初段審査の折に教科書の解りにくい文章が不満でならなかった私は練習で居合わせた先輩にその事をぶちまけました。

先輩はちょっと困ったような顔をしながらも「うーん、確かに解りにくくはあるよな。」と聞き留めて下さったので、私は少し気が収まりました。それから数ヶ月ほど過ぎたころ その先輩が私に

「うまくいかなかった時、迷った時、教科書を読み返してみると見えてくるものがあるんだ。古臭くてわかりにくいけどな。でも何百年も前に書かれたものが今もこうしてあるということは、やはり何かそこにあるんだろうな。少なくとも間違ったことは書かれてないはずだから何度も読み返してみるといい。」数ヶ月前のあの日、「あんな教科書を今だに発行しているなんてどうかしている！」などという私の愚痴を受け入れてくれた上に タイミング良く言い含めて下さる先輩の懐の大きさをしみじみと感じて、いい歳して青臭い愚痴をこぼした自分が恥ずかしくなりました。その後 教科書を読み返してみると、不思議なことに初段審査の頃よりも内容を理解できる自分に気がつきました。言い回しの悪さは相変わらず感じましたが、普段の練習で身体が覚えたことと相まって「なるほど、そういうことか」と思えることが増えてきました。

立派な道場、あたたかく見守ってくださる先生や先輩方、そして刺激し合いながらも楽しく練習できる仲間にも恵まれ、弓道を通して未熟な自分を見つめなおすことが出来て幸せに思っています。これまで、幸運にも昇段審査だけは駆け足で来てしまいましたが、知識や経験が全く追いついてない私ですので、ここから先はもう少しじっくりと弓道と向き合い、先生や先輩からいろいろなことを学んでいきたいと思っています。今後ともどうかよろしく願いいたします。

南極での弓

上橋 宏

《この原稿は平成19年発行の弦友会創立20周年誌に投稿した原稿を一部手直したものです》

十数年前の弓道誌に、南極で冰山をバックに弓を引く写真入りの報告がありました。それでは、海氷上で数人の弓道愛好家が演舞をしていました。それより約30年前の昭和48年から49年にかけて、私も南極越冬観測の為に1年間滞在したときに、弓、矢、的などを持って行きました。職住一緒

で通勤時間は必要無く、1年間ですから弓を引こうと思えば時間はいっぱいあるようなものです。しかし、南極の冬は寒くて、とても戸外で弓を引けるような状況ではありません。夏場の天気良くて風のないときの日中は暖かいので引くことは出来ます。休みがあってもないような毎日ですし、休みの日が暖かいとは限りませんから、数度引いたくらいでした。もう少し熱心に引くのだったなと思います。

的をつけるあづちは建物の風下に出来た雪の吹き溜まりです。北日本の吹雪のときの吹き溜まりですと矢が潜ってしまいますが、強い風によって出来た吹き溜まりですから砂のあづちと同じくらいの固さでした。南極の昭和基地では強い風が一定方向に吹きますから、吹き溜まりも同じところに出来て成長して非常に大きくなり、高さが2～3メートルくらいありますから、矢が飛び越えていくこともありません。



写真は30歳前であったその時に、凍った海と冰山をバックに弓を引いているところです。大陸と昭和基地のあるオングル島とは6キロほど離れています。写真より少し右側に大陸があるのですが、大陸といってもなだらかに氷に覆われていますから、写っていてもちょっとわからないかもしれません。足元は吹き溜まりとして積もった雪です。弓の引き方は現在とは少し違っているかもしれません。髪の毛もまだふさふさしています。

外で弓を引けるときは少ないので、建物の中で

素引きくらい出来ないかと思ったのですが、天井が低く、「つくばい」で引いても引けません。仕事場は床が少し広がったので、仰向けに寝て、素引きをしてみました。広さは十分あったのですが、足底が固定していないので、力が入らず、あきらめてしまいました。この状態で色々引いてみて力の加減を研究してみるのも良かったかもしれませんが、当時はそこまで知恵が回りませんでした。

私が南極へ行ったのは砕氷船「ふじ」の時代でしたから、趣味の私物も多少持って行けたのですが、「宗谷」の時でしたら、そのような余裕も無かったでしょうし、持って行った道具も持ち帰れないということもあったでしょう。気に入った弓だったので何事も無く持ち帰れたのは幸いでした。若かりし四段の頃の弓と関係したひとつの思い出です。

∞ 会長月誌 (抄) ∞

平成29年

5月16日

体育協会常任理事会：

6月17日開催の評議委員会資料内容確認

5月30日

体育協会理事会：評議員会、役員改選について

6月1日

埼玉県西部地域振興センター

NPO法人役員変更(再任)届け提出

6月17日

体育協会評議員会：役員改選について

会長・副会長、監事(草賀)、幹事(新家)再任

6月28日

水曜研修会：(矢渡研修)

7月20日

・第28回所沢シティマラソン大会役員会：

大会役員決定

・体育協会役員会：29年度事業、理事会について

(役員会後懇親会)

8月2日

スポーツ振興課に熊野神社謄本を届ける

8月22日

・体育協会理事会・懇親会

9月7日

・シティマラソン総務部会：

大会要項、業務分担、参加賞について

10月27日

・シティマラソン総務部会

予算案、参加賞の確認、選手宣誓者の調整、

特別ゲストの確認

近頃感じること

(編集後記に代えて)

飯島稔凱

最近、地震や集中豪雨などで甚大な被害を蒙っている地域のニュースが多く聞かれます。そうした中、当地域はこれまで大きな被害もなく、毎日当たり前のように道場で弓を引くことの出来る幸せを感じているところです。

ところでそうした幸せな状況の中、我々は何のために、何を考えて弓を引きに道場へ来ているのでしょうか？ それは人によって違うでしょうが、弓道が武道の一つであることに間違いはありません。

弓道教本には、趣味やスポーツとしての弓道と、より高い道を求める弓道という、弓道の二面性に触れ、修練の眼目として(1)射法射義の研修、(2)礼に即した体配の修練、(3)射品、射格の向上、(4)人間完成の必要、が挙げられ、さらに「弓道の要諦は至誠と礼節である」と謳っています。

和気あいあい自由に弓を引けることはありがたいことですが、弓道が武道という側面を持つ以上、自分自身にとっても、また道場で一緒に引いている仲間に対する礼儀としても、それなりの取り組み姿勢、心の持ち方が重要と思うのです。

先般、「弓道場利用の手引き」の改訂版を発行しました。タイトルに、敢えて「初心者のための」という見出しを付けましたが、これは初心者だけの問題ではありません。長く弓を引いてきた方、高段の方の中でも毎日の慣れの中でそうした基本的配慮が薄れてきていることは無いでしょうか。

弓道の教えの中に「間」ということがあります。複数での行射の際、自身の間、相互の間、全体の間
に留意せよということですが、この「間＝間合い」という言葉の中には「時間的な間」、「距離的な間」に加え、周りの人にも気を遣うという「人間関係の間」という意味合いもあると思うのです。いずれの「間」にしても、適切な間合いを保つには、まず周りの状況に対する「目配り」、「気配り」が欠かせません。その上で最終的には周りに対する「心配り＝気遣い」が必要でしょう。例えば、

・自由練習の中で、矢取りに行っている人がいるのが見えたら、なるべく待たせないよう、射場より安全を確認した上で、塚に入り易いタイミングで、大きな声で「お願いします」と率先して声をかけていますか？ 矢取り側からは安全の十分な確認が出来ません。安全確認は必ず射場側からしなければなりません。矢取りの人が先に赤旗を下ろしたり、手を叩くなどして催促するまで誰も声を掛けないのは、いかがなものでしょうか。

・2射場で行射の場合は、第一、第二射場ともお互いの進行状況をよく見極め、完全に安全を確認した上で声を掛けるよう充分注意して下さい。

・矢取りはその立の人が行かなければならないということはありません。1回待ってでも「自分の引いた矢数より多くの矢を上げる」という心がけを常に実践していますか？

・矢の拭き方で、矢尻の先によごれが残っているケースがままあります。矢は必ず一本一本、矢尻の先まで丁寧に拭いて欲しいものです。また射場に戻って矢立に入れる際、矢を矢立の底まで静かに置かず、ガチャッと音がするほど落とすような入れ方をする人が散見されます。大切な矢の扱い方としてまことに見苦しいです。

・坐射の人がいる場合、通常矢取りは一手引き終わるまで待ちます。自由練習の際に坐射で入る場合、矢取りが済むのを待って入るなど、タイミングに気を配って入っていますか？

・早くうまくなりたいと、数多く引くことは決して悪いことではありませんが、2射なり4射なり引いて、碟も外さず、矢取りに行くこともなく、

周りに何人いようと遠慮もなく何回も続けて立ちに入るようなことはありませんか？

・矢取りの前後など、つい立ったまま碟を外したり着けたりしていませんか？

・武道館は射場奥にベンチが置いてありますが、坐わることが難しい場合は別として、ベンチにどかかと腰かけているより、できれば床上に控えて他の人の射を拝見する方がよくはないでしょうか。他道場へ行った際は特に気をつけるべきでしょう。

・武道館へ来て、仲間や管理事務所の人には挨拶をしているでしょうが、他武道の人と出会った際にも進んで挨拶をしていますか？

こうした気遣い、心配りは道場内だけの事ではなく、仕事でも家庭でも周りの人とのお付き合いの中でも大切なことでしょう。「射即人生」という教えもあります。礼記射義をいくら口先で唱えても、審査の学科試験でそれらしいことを書いても、実践が伴わなければ何の意味があるのでしょうか。射品・射格などあったものではありません。

折角弓道という素晴らしい武道に巡り会ったのですから、そこで得たものを道場内は勿論のこと道場を離れても生かして行ければと思います。

口うるさいことを記して申し訳ありませんが、最近、「どう弓を引きたいかより、どう弓引きになりたいか考えなさい」という大先輩の教えを聞く機会がありました。以て、銘すべき言葉と思いました。

編集委員

飯島稔凱 甲斐久歳 小林康則
山口正彦 山口ひろ子 田中恵美子

所沢市弓道連盟会報誌 所弓便 第20号

発行日 平成29年11月30日

発行者 NPO 法人所沢市弓道連盟
会長 新家 透